

令和7年度議会報告会・意見交換会実施報告書

- 一、期 日：令和7年11月9日（日） 10：00～
会 場：郡山市議会議場、各委員会室、5－1－1会議室
参 加 者：52名
出席議員：37名（別紙のとおり）

二、議会報告会・意見交換会（司会進行：加藤漢太広聴広報委員長）

- （1）開会のことば・・・司会
- （2）挨拶・・・近内利男議長
- （3）議会報告会

①9月定例会・決算特別委員会報告：森合秀行議会運営委員長（決算特別委員長を兼ねる）

【9月定例会】9月定例会から県内の市町村議会で初となる手話通訳を導入した。正副議長選においては、志翔会の近内利男議員が議長に、緑風会の諸越裕議員が副議長に選出された。市長の議案提案から2日間の議案調査、15名の議員による一般質問の後、各常任委員会審査後の本会議で市長提案議案の可決および承認と請願の採決を行った。

【決算特別委員会】令和6年度の決算審査と期間中の現地調査報告、決算認定等議案の可決、認定および同意を行った。

②総務財政常任委員会報告：但野光夫委員長

今年度の税収は537億7,084万円で、前年度と比べて約25億9,200万円の増収となる見込みで、令和6年度の決算に基づく財政の健全化判断比率は「健全」の状況となっている。政策開発部DX戦略課では、手のひらの上のデジタル市役所を目標に掲げ、各種申請のオンライン化、人工知能や自動化技術を駆使した業務の効率化を推進し、市民サービスの向上を図っている。その他の部署では、防災・危機管理体制の強化や避難所環境の充実、税納入手段のスマート化、本市が所有する資産活用、近隣の市町村との連携などにも取り組んでいる。

③建設環境常任委員会報告：會田一男委員長

環境分野では、東山悠苑運営管理事業における補正予算について、建設分野では、側溝改修等の道路環境や道路照明LED化に関する予算、道路台帳の図面の写しの交付手数料に関しての条例の一部を改正する条例について、都市構想分野では、三春町町営バスの停留所設置について、上下水道分野では、農業集落排水事業における債務負担の追加や7件の上下水道局の工事契約締結について当局の説明を受け了とし可決及び承認した。郡山駅前広場施設改修事業費の一部である、渋滞緩和に向けた西口ロータリーの改修等の実施について、計画的かつ効率的な施策推進に努めていく。

④生活福祉常任委員会報告：久野三男委員長

「こども誰でも通園制度」、高齢者施設の「防災・減災対策」の推進やDXの推進、各種市民サービスの向上や利便性向上への取り組みについて審査した。請願「不安な未来を希望に変えるため、郡山市への制度創設を求める請願書」を採択とすべきとして採択した。

⑤文教経済常任委員会報告：大木進委員長

トマト黄化葉巻病への緊急対策について、郡山市篤志奨学資金の給与基準について、郡山市総合地方卸売市場の特別会計補正予算について、多田野小学校の統廃合に関する郡山市立学校条例及び郡山市放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例について、いずれも当局の説明を了とし、原案のとおり可決した。農商工連携による販路拡大を重点戦略として、地域経済の活性化を目指し常任委員会が常に計画と実施状況を確認し、より大きな成果が得られるよう、PDCAサイクル事業とした。

(4) 意見交換会

(広聴広報委員会本田豊栄委員による意見交換会の進め方の説明後、4つの委員会に分かれ、広聴広報委員の進行で意見交換。)

[主な意見]

○ 第1委員会室 総務財政常任委員会発表：但野光夫委員、本田豊栄委員

「みんなに選ばれるまちづくり」

- ・郡山市は広く地域が細分化され、市民の皆さんの郡山市への帰属意識が少ないのではないかと。
- ・障がい者に優しい街は、子どもからお年寄りまで住みやすい街となり、選ばれるまちのアピールポイントになる。
- ・ユニバーサルデザインを重視した政策は重要で長年推進してきたがさらに進めたい。
- ・今後の対応について（まとめ）

自然、食べ物、スポーツ、音楽など街の魅力の発信を進める。また、すべての人にやさしいまち(情報保障)の充実を図る。若い世代が住み続けられる、また戻って来られる環境づくりや市民一人一人が郡山市への帰属意識を持ち、住んで良かったと思える施策の実現が重要である。

○ 第2委員会室 建設環境常任委員会発表：吉田公男委員

「旧豊田貯水池の利活用 ～人が集まるための整備の姿～」

- ・もともと下ノ池として、郡山市の発展に寄与してきた土地である、安積疏水記念館を建設して欲しい。
- ・水害対策として、現状の貯水池を生かして、雨水貯留施設を整備して欲しい。上物は多目的施設とすべき。
- ・未成年の立場から、車でしか行けない施設には興味がわからない。公共交通網の整備と歩いて回遊できる中心市街地として整備して欲しい。
- ・野球場・体育館のイベント時、内環状線が大渋滞してしまう。旧豊田貯水池の整備には、周辺の道路の拡幅などの整備を共に考えるべき。同じく、駐車場の整備もすべき。
- ・合同庁舎閉鎖後を見据えて、合同庁舎を含めた中心市街地の整備を含めた都市整備計画とすべき。
- ・早急に結論を出さずに、中心市街地では、次世代に残せる唯一の広大な土地である。次世代利活用用地として整備の議論を進めたい。

○ 第3委員会室 生活福祉常任委員会（グループ①）発表：遠藤利子委員

「安心して子育てができるまちにするには」

- ・ 先ずは、子育て支援として補助金は必要である。（子育て中の方から）
- ・ 第2子がいて夫婦で頑張っているが、無償化には所得制限がある。所得制限の撤廃を望む。（2人から要望）
- ・ 昔あった出会いの場を復活させてほしい、今はそういう場もないため。
- ・ 手話条例ができたが、手話を学ぶ人は決まっている。市の支援などにより、多くの方に手話を広めていきたい。（聴覚障がい者からの意見）
- ・ 郡山市の様々な子育て支援が、多くの方に伝わっていない。対象者に情報が伝わるような工夫は重要との意見が多く聞かれた。

○ 5-1-1 会議室 生活福祉常任委員会（グループ②）発表：池田義人委員

「安心して子育てができるまちにするには」

[経済的な不安]

- ・ 個々の所得の問題もあるが、行政が子育てについての予算をどこに使うのかが大切である。

[保育・教育の環境]

- ・ 保育士等のなり手が不足している。
- ・ 子育て世代が集う場所がない。
- ・ 小学校で、歯のフッ化物洗口が行われなくなってしまった。実施することで子どもの健康が保たれ、結果として医療費が削減できるのではないか。

[相談相手がいらない]

- ・ 子どもが熱をだした時など、急遽、休暇をとりたい時などに職場で相談できる相手がいらない。
- ・ 行政から様々な情報発信がされているが、必要な方に情報が届いていないのではないか。
- ・ 情報を受ける側が、必要な時に入手できる環境をつくっておくことも大切ではないか。
- ・ P T A のなり手が不足している。
- ・ 「安心して子育てができるまち」になるように「環境整備」に予算をつけるべきということでもあった。

○ 第4委員会室 文教経済常任委員会発表：遠藤隆委員

「子ども若者が定着する郡山にするには（就労）」

- ・ 魅力がない、音楽の街というわりにはアーティストが来ない。アーティストにとっても大手事務所などの目にとまることはなく、チャンスは少ない。
- ・ 地域で子供を育てる、子供たちを守る。市の相談窓口を子どもたちにわかるように明確にしてほしい。
- ・ 子どもの夏休みや冬休みの平日に企業訪問を学校とタイアップして実施できるのでは？また、市内に限らず、県内の企業も訪問対象として良いのでは？
- ・ 女性の働く場所を増やしていく必要がある。
- ・ 若者が建設業にも就職し、街全体を再開発していくことに取り組んでもらいたい。

(5) 謝辞・・諸越裕副議長

(6) 閉会のことば ・・司会

出席者一覧

No	委員会	職	議員名	備考
1	—	議長	近内 利男	
2	—	副議長	諸越 裕	
3	議会運営委員会	委員長	森合 秀行	
4		副委員長	遠藤 利子	広聴広報委員会委員を兼ねる
5	総務財政常任委員会	委員長	但野 光夫	広聴広報委員会委員を兼ねる
6		副委員長	福田 文子	
7	建設環境常任委員会	委員長	會田 一男	
8		副委員長	薄井 長広	
9	生活福祉常任委員会	委員長	久野 三男	
10		副委員長	池田 義人	広聴広報委員会委員を兼ねる
11	文教経済常任委員会	委員長	大木 進	
12		副委員長	伊藤 典夫	
13	広聴広報委員会	委員長	加藤 漢太	
14		副委員長	箭内 好彦	
15		委員	飯塚 裕一	
16			村上 晃一	
17			遠藤 隆	
18			本田 豊栄	
19			吉田 公男	
20			古山 唯	
21		議員参加者	大城 宏之	
22			佐藤 政喜	
23			石川 義和	
24			廣田 耕一	
25			栗原 晃	

26	議員参加者	小島 寛子	
27		八重樫 小代子	
28		塩田 義智	
29		良田 金次郎	
30		折笠 正	
31		山根 悟	
32		佐藤 栄作	
33		岡田 哲夫	
34		富樫 賢太郎	
35		名木 敬一	
36		三瓶 宗盛	
37		大河原 裕勝	